

特別講演 I

1日目 10月15日(木) 10:50~11:50
第1会場(北見市民会館 1F 大ホール)

知床・オホーツクの自然を守る ～過去・現在・未来

午来 昌(元 斜里町長)

座長 上野 富衣(北見赤十字病院 副院長兼看護部長)

特別講演 I (SL-01)

知床・オホーツクの自然を守る ～過去・現在・未来

元 斜里町長

午来 昌

「午来さん、知床の自然を守ってほしい。」知床の山で出会った人々からの言葉が私の人生を支えてきました。

2005年7月14日、南アフリカにおける第29回世界遺産委員会で知床の世界遺産登録が決定しました。12年間もの間、羅臼町と手を取り合い、住民の理解を得てこぎつけたこの登録の瞬間は、いつ思い出しても胸が熱くなり、ここに生まれ育った者として誇りに思います。

昔より知床の自然は、時に命がけで戦わなくてはならない我々人間には美しくも巨大な力を持ったものでありました。しかし「開発」という名のもと、人の作った機械の前に儂い弱さを見せ、いとも簡単に傷ついてしまいます。

今でこそ「環境・生態系」という言葉は誰もが知っている言葉ではありますが、開発優先時代にあった地元の人々は、まず暮らしが第一であり、水道や道路などインフラ整備を望む声が高く、森林の伐採が強行され、ダム建設が進みます。町民に理解を求め意識改革を行っていくことは困難を極め、暮らしと自然保護のバランス維持は難題づくしでありました。

私はこの美しい知床の自然を後世に残すため、町議・町長として、開発を優先する時代に声を挙げ、「知床百平方メートル運動」をはじめ、様々な自然保全の施策を実施してきた中で、「私たちが豊かに暮らしていけるのは自然があってこそなんだ」と気づき、次世代への想像力を膨らませることが大事であると学びました。

15歳の時に父を突然亡くし、8人兄弟の長男として一家を支えてきました。進学をあきらめ、幼い兄弟の面倒に明け暮れ、そして貧乏でありました。やり場のない気持ちを胸に卑屈になっていた私を救ったのが知床の山々であったのです。

地域のきずなも経済活動もその根に「自然」があることで成り立つ。この思想を胸に地域の環境問題に取り組み、これからも知床・オホーツクの自然を守り続けていきたいと思っています。

【世界遺産「知床」】

登録区分：自然遺産

面積：羅臼町 398.87km²斜里町 734.00km²

海 域 22,500ha

陸 域 48,500ha 合計71,000ha

クライテリア（評価基準）：①生態系

②生物多様性

日本では知床のみ。その他に、地形、地質、自然景観



【プロフィール】

午来 昌（ごらい さかえ）

1936年生まれ

1951年 斜里町立宇登呂中学校卒業

1951年 農業経営（種子馬鈴薯生産）を経て現在に至る

【主な公職歴】

1967年 斜里町議会議員(4期)

1987年 斜里町長(5期)

1969年 斜里町青少年問題協議会委員

1987年 //

1971年 町有林野経営審議会委員

1972年 斜里町自然保護審議会委員

1976年 斜里町顕彰委員会委員

1978年 斜里町自然景観保全審議会委員

【主な団体歴】

1971年 北海道自然保護協議会理事

1973年 知床自然保護協議会会長

1987年 斜里町トチ開発公社理事

1987年 斜里町観光振興公社取締役

1992年 社団法人日本ナショナルトラスト協会理事

1999年 北海道自然公園協会会長

1999年 財団法人国立公園協会理事

1999年 自然公園等保全整備促進中央協議会副会長

1999年 網走支庁管内町村会副会長

1999年 北海道町村会理事

2003年 北海道スポーツ振興審議会委員

2004年 財団法人自然公園財団評議員

2008年 NPO 法人日露平和公園協会理事長、現在に至る

2011年 公益財団法人知床自然大学院大学設立財団設立者、評議員、現在に至る